



### 7月の採用薬品（特定個人薬品）

#### **イリボーOD錠2.5μg** **下痢型過敏性腸症候群治療剤** **アステラス製薬**



【効】下痢型過敏性腸症候群  
 【用】＜男性における下痢型過敏性腸症候群＞：  
 通常、成人男性にはラモセトロン塩酸塩として5μgを1日1回経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、1日最高投与量は10μgまでとする。  
 ＜女性における下痢型過敏性腸症候群＞：  
 通常、成人女性にはラモセトロン塩酸塩として2.5μgを1日1回経口投与する。なお、効果不十分の場合には増量することができるが、1日最高投与量は5μgまでとする。  
 【副】添付文書参照

#### **プリモボラン錠5mg** **蛋白同化ステロイド剤** **バイエル薬品**



【効】①骨粗鬆症  
 ②慢性腎疾患、悪性腫瘍、外傷、熱傷による著しい消耗状態  
 ③再生不良性貧血による骨髄の消耗状態  
 【用】メテノロン酢酸エステルとして、通常、成人1日10～20mgを2～3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。  
 【副】添付文書参照

#### **ゼオマイン筋注用200単位** **A型ボツリヌス毒素製剤** **帝人ファーマ**



【効】①上肢痙縮、②下肢痙縮  
 【用】【副】添付文書参照

### 後発医薬品への変更、採用薬品の名称変更など

グルコバイ錠100mg → アカルボースOD錠100mg「テバ」  
 トリノシン顆粒10% → アデホスコーフ顆粒10%（院外専用薬品）  
 ベタヒスチンメシル酸塩錠6mg「JD」 → 「トーワ」（名称変更）  
 レボフロキサシン点眼液0.5%「ファイザー」 → 「VTRS」（名称変更）  
 セフトアジジム静注用1g「マイラン」 → 「VTRS」（名称変更）

### 7月の採用薬品（院外専用薬品）

#### **プリミドン細粒99.5%「日医工」** **抗てんかん剤** **日医工**



【効】①てんかんのけいれん発作：  
 強直間代発作（全般けいれん発作、大発作）  
 焦点発作（ジャクソン型発作を含む）  
 ②精神運動発作  
 ③小型（運動）発作〔ミオクロニー発作、失立（無動）発作、點頭てんかん（幼児けい縮発作、BNSけいれん等）〕  
 【用】プリミドンとして、通常成人は治療初期3日間は1日0.25gを就寝前に経口投与する。以後3日間毎に0.25gずつ増量して、症状によっては発作の消長を考慮して、1日量1.5gまで漸増し、2～3回に分割経口投与する。  
 なお、必要によっては1日量2.0gまで増量することができる。  
 小児に対しては、治療初期3日間は1日0.125gを就寝前に経口投与する。以後3～4日間毎に0.125gずつ増量して、次の標準投与量まで漸増し2～3回に分割経口投与する。  
 2歳まで：0.25～0.50g  
 3～5歳まで：0.50～0.75g  
 6～15歳まで：0.75～1.00g  
 症状によっては発作の消長を考慮して、さらに増量してもよい。  
 【副】添付文書参照

#### **ニューレプチル錠5mg** **精神神経用剤** **高田製薬**



【効】統合失調症  
 【用】通常、成人にはプロペリシアジンとして、1日10～60mgを分割経口投与する。  
 なお、年齢、症状により適宜増減する。  
 【副】添付文書参照

### 採用区分変更薬品

ガランタミンOD錠8mg「武田テバ」 採用薬品 → 注文薬品  
 ポビドンヨードガーグル液7%「ケンエー」 採用薬品 → 院外専用薬品

